

令和3年度 全国学力・学習状況調査

調査結果のポイントについて

～北海道（公立）における調査結果～

**北海道教育委員会
令和3年（2021年）8月31日**

【 目 次 】

1. 調査の概要	1
2. 結果の概要	2
■ 教科に関する調査	
■ 児童生徒質問紙調査	
■ 学校質問紙調査	
3. 教科に関する調査	
■ 小学校〈国語、算数〉.....	4
■ 中学校〈国語、数学〉.....	8
4. 質問紙調査	12
5. 新型コロナウイルス感染症の影響について.....	19
【参考】札幌市を除く北海道の調査結果	23

1. 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部の第6学年の児童

中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部の第3学年の生徒

3 調査の内容

教科に関する調査（国語、算数・数学）

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

上記とを一体的に問う。

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査

・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査の方式

悉皆調査

5 調査の実施日

令和3年（2021年）5月27日（木）

6 令和3年（2021年）5月27日（木）に調査を実施した学校数・児童生徒数

北海道（公立）

〔参考〕全国（公立）

	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)		対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	981	972(99.1%)	36,456	小学校	18,965	18,857(99.4%)	993,975
中学校	576	567(98.4%)	34,700	中学校	9,475	9,320(98.4%)	903,157
合計	1,557	1,539(98.8%)	71,156	合計	28,440	28,177(99.1%)	1,897,132

札幌市を含む。

調査期日に実施できなかった学校は、実施学校数に含まれていない。

【調査結果の解釈等に関する留意事項】

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、中央値*1、標準偏差*2等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

北海道の各教科の平均正答率については、国が公表した整数値と、国から提供されたデータをもとに道教委が独自に算出した小数値で示している。

*1 中央値：集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中に位置する値。平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

*2 標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。

2. 結果の概要

教科に関する調査

平均正答率の比較

- ・ 小学校は、すべての教科で全国との差が2.7ポイント以内（平成31年度（令和元年度）2.1ポイント以内）。
- ・ 中学校は、すべての教科で全国との差が1.3ポイント以内（平成31年度（令和元年度）1.7ポイント以内）。

各教科の平均正答率

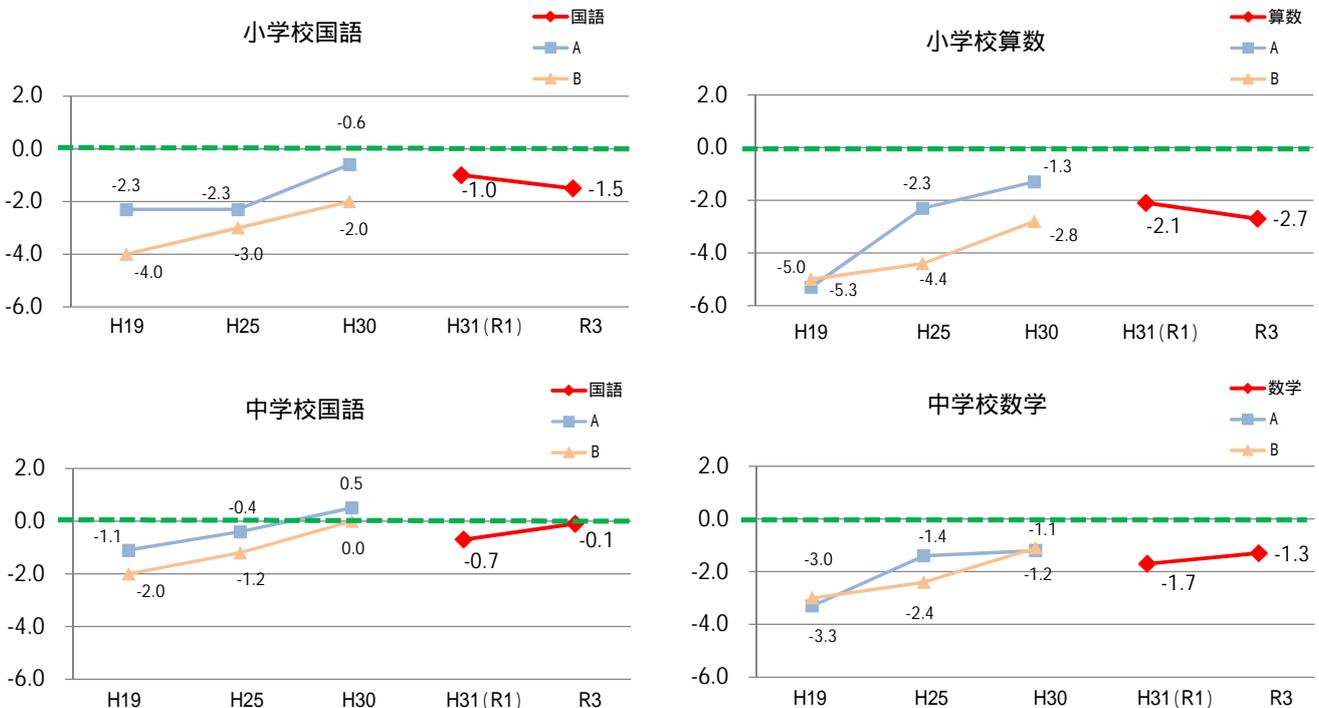
		小学校		中学校	
		国語	算数	国語	数学
平均正答率 (%)	道	63 (63.2)	67 (67.5)	65 (64.5)	56 (55.9)
		63 [62.8]	64 [64.5]	72 [72.1]	58 [58.1]
	国	65 (64.7)	70 (70.2)	65 (64.6)	57 (57.2)
		64 [63.8]	67 [66.6]	73 [72.8]	60 [59.8]
平均正答数 (問)	道	8.9/14	10.8/16	9.0/14	8.9/16
		8.8/14	9.0/14	7.2/10	9.3/16
	国	9.1/14	11.2/16	9.0/14	9.1/16
		8.9/14	9.3/14	7.3/10	9.6/16

道の平均正答率：国が公表した整数値（道教委が独自に算出した小数値）

国の平均正答率：国が公表した小数値を、小数第1位で四捨五入した整数値（国が公表した小数値）

上段は令和3年度、下段は平成31年度（令和元年度）

全国と北海道の平均正答率の差



数値は、「北海道(公立)の平均正答率 - 全国(公立)の平均正答率」の差で算出。

■ 児童生徒質問紙調査(グラフはP12、P14、P16に掲載)

() 内は質問番号

- ① 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた児童生徒の割合は、小学校で30.7%、中学校で32.4%であり、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で0.2ポイント低く、中学校で5.6ポイント高い。全国と比べて、小学校で0.4ポイント高く、中学校で1.1ポイント低い。(小33、中33)
- ② 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童生徒の割合は、小学校で33.0%、中学校で32.6%であり、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で4.4ポイント、中学校で5.6ポイント高い。全国と比べて、小学校で同様、中学校で1.3ポイント低い。(小37、中37)
- ③ 自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合は、小学校で31.9%、中学校で33.8%であり、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で3.7ポイント低く、中学校で4.1ポイント高い。全国と比べて、小学校で4.3ポイント、中学校で0.7ポイント低い。(小6、中6)
- ④ 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は、小学校で58.8%、中学校で40.1%であり、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で5.4ポイント、中学校で5.6ポイント低い。全国と比べて、小学校で1.4ポイント、中学校で0.4ポイント低い。(小7、中7)
- ⑤ 家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合は、小学校で78.9%、中学校で65.2%であり、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で7.6ポイント、中学校で16.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で4.9ポイント、中学校で1.7ポイント高い。(小17、中17)
- ⑥ 普段、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は、小学校で58.3%、中学校で71.9%であり、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で0.7ポイント、中学校で8.7ポイント高い。全国と比べて、小学校で4.2ポイント、中学校で4.0ポイント低い。(小18、中18)

■ 学校質問紙調査(グラフはP13、P15、P17、P18に掲載)

() 内は質問番号

- ⑦ 児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う学校の割合は、小学校で26.2%、中学校で21.9%であり、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で1.2ポイント低く、中学校で4.1ポイント高い。全国と比べて、小学校で7.7ポイント、中学校で3.5ポイント高い。(小29、中29)
- ⑧ 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をよく行った学校の割合は、小学校で36.5%、中学校で29.6%であり、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で4.3ポイント、中学校で3.4ポイント低い。全国と比べて、小学校で15.3ポイント、中学校で10.0ポイント高い。(小36、中36)
- ⑨ 学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組をよく行った学校の割合は、小学校で72.9%、中学校で69.7%であり、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で3.3ポイント、中学校で3.9ポイント高い。全国と比べて、小学校で8.8ポイント、中学校で5.9ポイント高い。(小11、中11)
- ⑩ 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をよく行った学校の割合は、小学校で30.8%、中学校で55.0%であり、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で0.5ポイント高く、中学校で6.1ポイント低い。全国と比べて、小学校で10.5ポイント、中学校で5.4ポイント高い。(小8、中8)
- ⑪ 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立をよくしている学校の割合は、小学校で51.1%、中学校で50.3%であり、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で5.1ポイント、中学校で3.0ポイント低い。全国と比べて、小学校で20.0ポイント、中学校で20.5ポイント高い。(小19、中19)
- ⑫ 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的によく取り組んでいる学校の割合は、小学校で65.8%、中学校で63.8%であり、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で0.4ポイント低く、中学校で1.3ポイント高い。全国と比べて、小学校で11.4ポイント、中学校で12.7ポイント高い。(小17、中17)
- ⑬ 教職員と児童生徒がやりとりする場面でICT機器をよく活用している学校の割合は、小学校で11.1%、中学校で13.9%であり、全国と比べて、小学校で0.5ポイント、中学校で2.7ポイント高い。(小71、中71)
- ⑭ 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、家庭に持ち帰らせている学校の割合は、小学校で6.1%、中学校で10.0%であり、全国と比べて、小学校で14.4ポイント、中学校で10.8ポイント低い。(小75、中75)

3. 教科に関する調査 小学校国語

【概要】
平均正答率は63〔63.2〕%
平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.5ポイント。

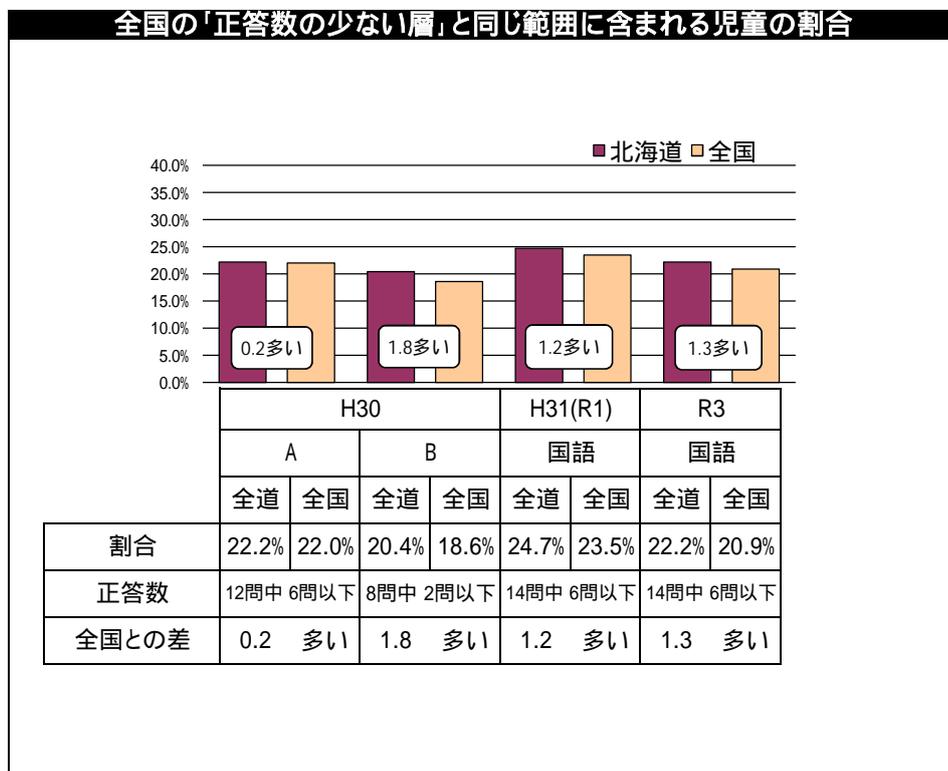
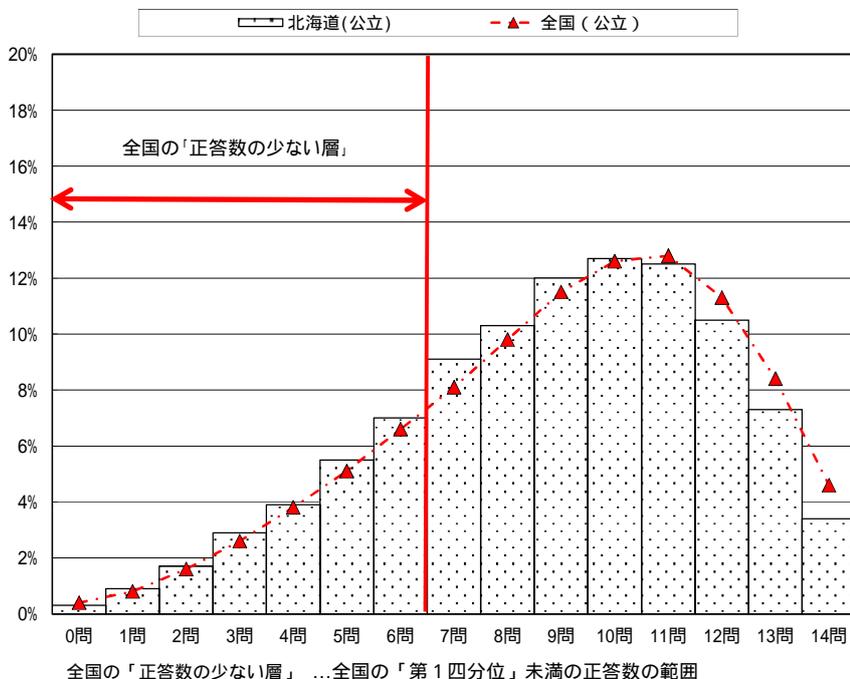
	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	36,456	8.9 / 14	63〔63.2〕	9.0	3.0
全国(公立)	993,975	9.1 / 14	65〔64.7〕	9.0	3.1

正答数(正答率)	北海道	全国
14問(100.0%)	3.4	4.6
13問(92.9%)	7.3	8.4
12問(85.7%)	10.5	11.3
11問(78.6%)	12.5	12.8
10問(71.4%)	12.7	12.6
9問(64.3%)	12.0	11.5
8問(57.1%)	10.3	9.8
7問(50.0%)	9.1	8.1
6問(42.9%)	7.0	6.6
5問(35.7%)	5.5	5.1
4問(28.6%)	3.9	3.8
3問(21.4%)	2.9	2.6
2問(14.3%)	1.7	1.6
1問(7.1%)	0.9	0.8
0問(0.0%)	0.3	0.4

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

	北海道	全国
第3四分位	11.0問	11.0問
第2四分位	9.0問	9.0問
第1四分位	7.0問	7.0問

児童を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。
 は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合。

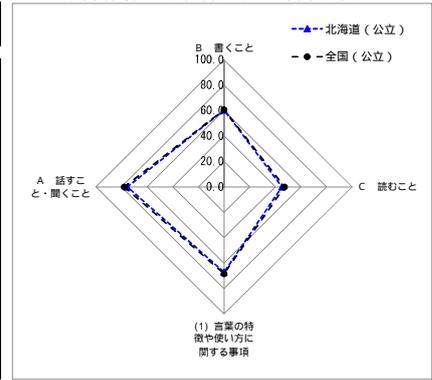


問題別調査結果 [小学校国語]

集計結果

対象学校数		北海道(公立)	全国(公立)	対象児童数	北海道(公立)	全国(公立)
		972	18,857		36,456	993,975
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			北海道(公立)	全国(公立)		
全体			14	63 [63.2]	65 [64.7]	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	6	67.1	68.3	
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	75.4	77.8	
		B 書くこと	2	60.4	60.7	
C 読むこと		3	45.2	47.2		
評価の観点	知識・技能	6	67.1	68.3		
	思考・判断・表現	8	60.3	62.1		
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	8	69.8	71.7		
	短答式	3	70.6	70.6		
	記述式	3	38.3	40.2		

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



一つの問題が複数の区分に該当する場合がありますため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)	
			(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	(2) 情報の扱い方にに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項			北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
1-1	津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える			5・6イ			75.1	77.5	0.2	0.3
1-2	津田梅子についての【スピーチ】の練習で、資料と資料を使った理由の説明として適切なものを選択する	資料を用いた目的を理解する			5・6ウ			73.1	74.9	0.3	0.4
1-3	津田梅子についての【スピーチ】の練習の【……】の部分で話す内容として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、資料を使って話す			5・6ウ			78.1	81.0	0.3	0.4
2-1	面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する			5・6ア			76.1	77.6	0.3	0.4
2-2	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う	5・6オ					86.4	87.5	0.2	0.3
2-3	面ファスナーに関する【資料】を読み、イラストは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける			5・6ツ			32.0	34.4	4.4	4.1
2-4	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する			3・4カ			27.4	29.7	5.8	5.5
3-1	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える			5・6イ			65.3	64.8	1.7	2.1
3-2	丸山さんの【文章の下書き】の……部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す	目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する			5・6ツ			55.6	56.6	9.9	9.6
3-3(1)ア	丸山さんの【文章の下書き】の中の……部アを、漢字を使って書き直す(ころがっている)		5・6エ					79.6	78.3	8.3	8.8
3-3(1)ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の……部ウを、漢字を使って書き直す(つみ重ね)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	5・6エ					55.3	54.4	13.6	14.4
3-3(1)エ	丸山さんの【文章の下書き】の中の……部エを、漢字を使って書き直す(げんいん)		5・6エ					77.0	79.0	6.1	6.6
3-3(2)イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の……部イで、〰〰部「残されています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉える	3・4カ					63.9	67.0	2.9	3.8
3-3(2)オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の……部オで、〰〰部「すぐに」がくわくしている言葉として適切なものを選択する	文の中における修飾と被修飾との関係を捉える	3・4カ					40.6	43.6	3.1	4.1

塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H30		H31(R1)	R3
	A	B		
平均正答率が全国以上の問題数	4 / 12問	0 / 8問	1 / 14問	3 / 14問
無解答率が全国以下の問題数	12 / 12問	5 / 8問	9 / 14問	11 / 14問
無解答率が5%以上の問題数	4 / 12問	2 / 8問	8 / 14問	5 / 14問

3. 教科に関する調査 小学校算数

【概要】
 平均正答率は67〔67.5〕%
 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-2.7ポイント。

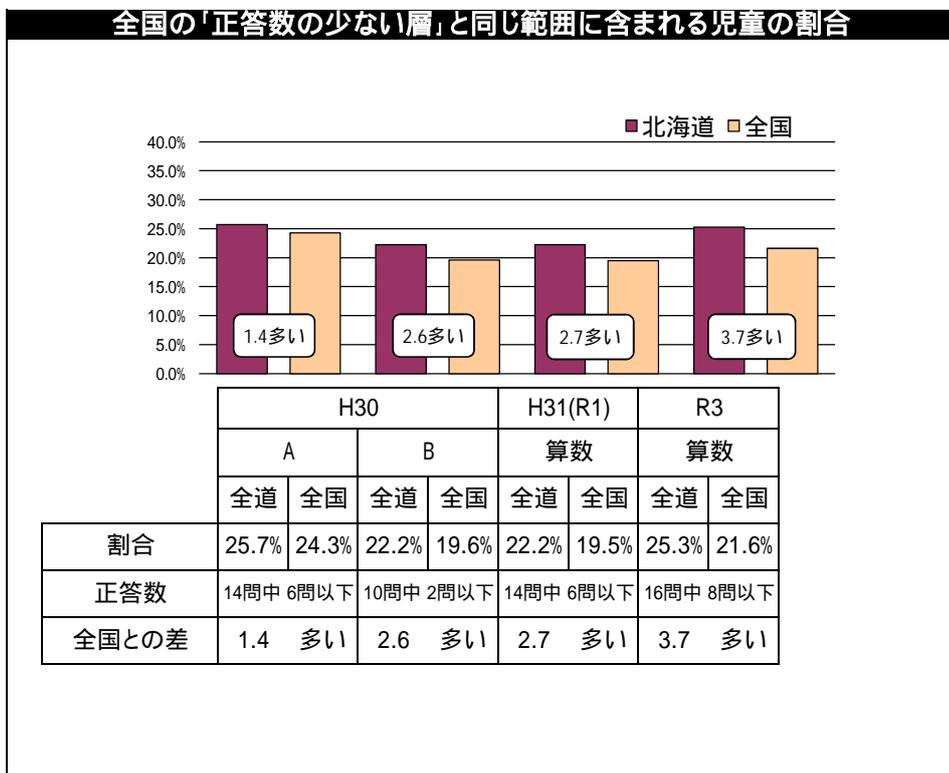
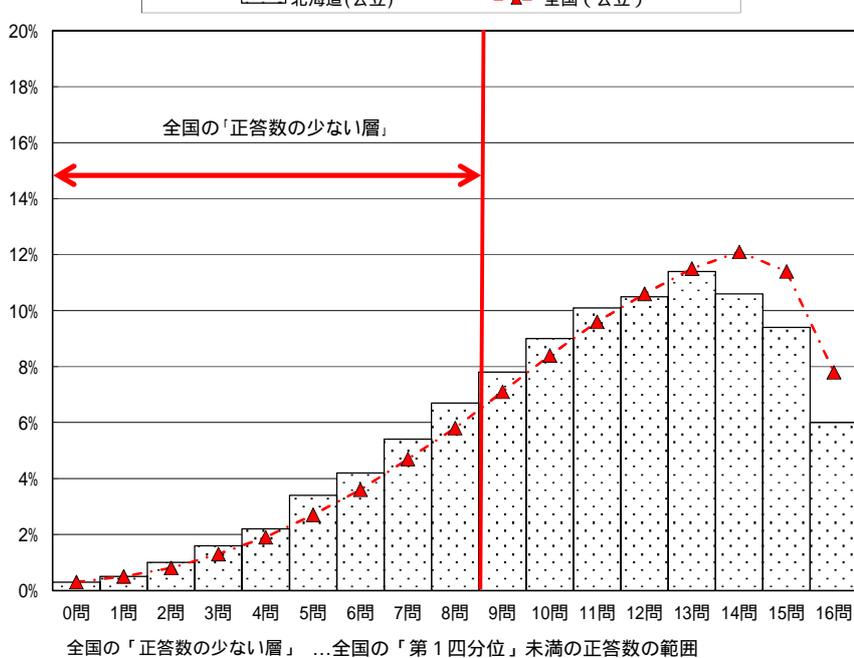
	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	36,450	10.8 / 16	67〔67.5〕	11.0	3.5
全国(公立)	994,101	11.2 / 16	70〔70.2〕	12.0	3.5

正答数(正答率)	北海道	全国
16問(100.0%)	6.0	7.8
15問(93.8%)	9.4	11.4
14問(87.5%)	10.6	12.1
13問(81.3%)	11.4	11.5
12問(75.0%)	10.5	10.6
11問(68.8%)	10.1	9.6
10問(62.5%)	9.0	8.4
9問(56.3%)	7.8	7.1
8問(50.0%)	6.7	5.8
7問(43.8%)	5.4	4.7
6問(37.5%)	4.2	3.6
5問(31.3%)	3.4	2.7
4問(25.0%)	2.2	1.9
3問(18.8%)	1.6	1.3
2問(12.5%)	1.0	0.8
1問(6.3%)	0.5	0.5
0問(0.0%)	0.3	0.3

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

	北海道	全国
第3四分位	14.0問	14.0問
第2四分位	11.0問	12.0問
第1四分位	8.0問	9.0問

児童を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。
 ■は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合。

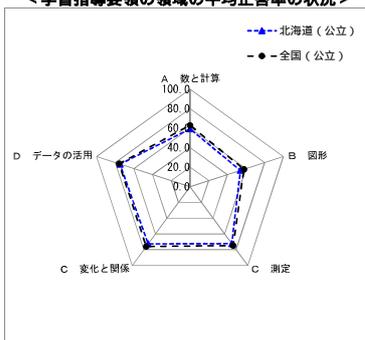


問題別調査結果 [小学校算数]

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象児童数	北海道(公立)	全国(公立)
	972	18,854		36,450	994,101
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全国(公立)	
全体		16	67 [67.5]	70 [70.2]	
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	59.4	63.1	
	B 図形	3	54.0	57.9	
	C 測定	3	72.4	74.8	
	D データの活用	5	75.0	76.0	
評価の観点	知識・技能	9	71.3	74.1	
	思考・判断・表現	7	62.5	65.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	74.6	76.0	
	短答式	6	72.3	75.8	
	記述式	4	49.5	53.0	

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)	
			A 数と計算	B 図形	C 測定	D データの活用			北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
1(1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	二つの道のりの差を求めるときに必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	1(2) ア(イ)	3(2) ア(イ)	2(1) ア(イ)				57.8	62.5	2.0	1.7
1(2)	500mを歩くのに7分かかるとを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる			5(1) イ(ア)				85.8	86.7	2.0	1.7
1(3)	と の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ	速さを求める除法の式と商の意味を理解している			5(2) ア(イ)				51.1	55.8	1.5	1.4
1(4)	午後1時35分から50分後の時刻を書く	条件に合う時刻を求めることができる			3(2) ア(イ)				87.9	89.2	0.7	0.7
1(5)	分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く	速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる			5(2) ア(イ)				80.6	85.1	1.9	1.5
2(1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解している	5(3) ア(イ)						46.8	55.1	1.9	1.6
2(2)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる	5(3) ア(イ)	1(1) ア(イ)					71.6	72.5	1.1	1.0
2(3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる	5(3) ア(イ)						43.6	46.0	5.4	4.6
3(1)	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、数量を読み取ることができる			3(1) ア(イ)				95.1	95.8	0.4	0.4
3(2)	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる			3(1) ア(イ)				89.2	90.7	0.4	0.4
3(3)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ	データを二次元の表に分類整理することができる			4(1) ア(イ)				67.7	67.5	1.7	1.7
3(4)	帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる			5(1) ア(イ)				49.8	52.0	11.8	10.3
3(5)	5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ	集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる			5(1) ア(イ)				73.0	73.9	1.5	1.3
4(1)	余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる	3(4) ア(イ)						81.1	83.0	2.0	1.7
4(2)	8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一入分のジュースの量を求める式と答えを書く	商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる	4(4) ア(イ)						51.9	55.5	2.4	2.0
4(3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる	4(4) ア(イ)						46.7	51.5	12.4	10.3

本設問においては、思考力、判断力、表現力等をもつために用いる知識及び技能を示している。

塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H30		H31(R1)	R3
	A	B		
平均正答率が全国以上の問題数	3 / 14問	1 / 10問	1 / 14問	1 / 16問
無解答率が全国以下の問題数	8 / 14問	1 / 10問	5 / 14問	4 / 16問
無解答率が5%以上の問題数	1 / 14問	6 / 10問	2 / 14問	3 / 16問

3. 教科に関する調査

■ 中学校国語

【概要】

- 平均正答率は65〔64.5〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-0.1ポイント。
- 【参考】今年度対象となった生徒の小学校6学年時の結果
 平成30年度小学校国語Aの全国の平均正答率との差は、-0.6ポイント。
 平成30年度小学校国語Bの全国の平均正答率との差は、-2.0ポイント。

	生徒数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	34,700	9.0 / 14	65〔64.5〕	9.0	2.7
全国(公立)	903,157	9.0 / 14	65〔64.6〕	9.0	2.8

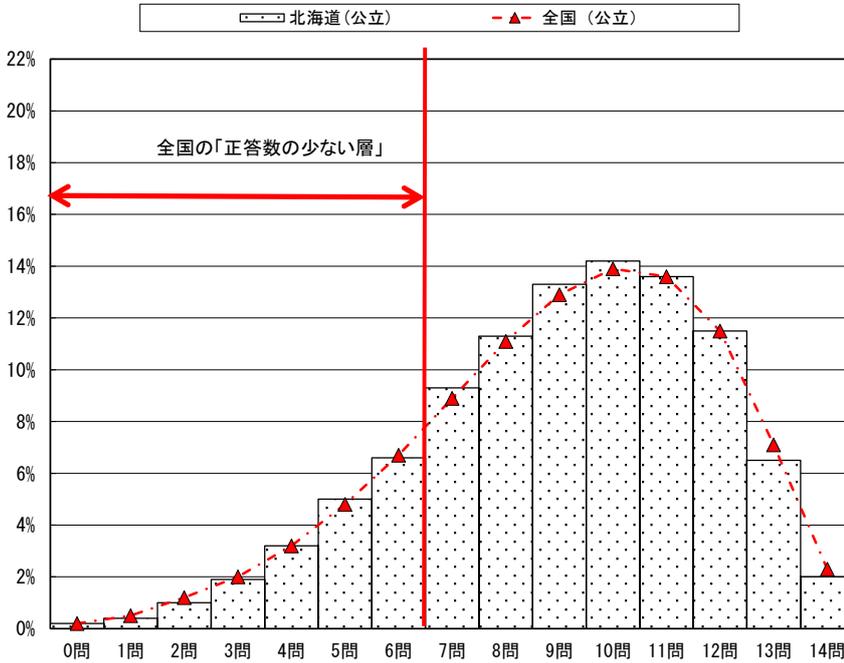
正答数 (生徒の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
14問(100.0%)	2.0	2.3
13問(92.9%)	6.5	7.1
12問(85.7%)	11.5	11.5
△ 11問(78.6%)	13.6	13.6
◇ 10問(71.4%)	14.2	13.9
◇ 9問(64.3%)	13.3	12.9
◇ 8問(57.1%)	11.3	11.1
▽ 7問(50.0%)	9.3	8.9
6問(42.9%)	6.6	6.7
5問(35.7%)	5.0	4.8
4問(28.6%)	3.2	3.2
3問(21.4%)	1.9	2.0
2問(14.3%)	1.0	1.2
1問(7.1%)	0.4	0.5
0問(0.0%)	0.2	0.2

(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△11.0問	11.0問
第2四分位	◇9.0問	9.0問
第1四分位	▽7.0問	7.0問

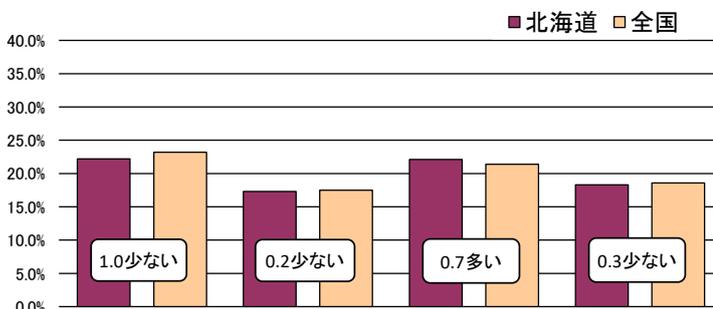
※ 生徒を正答数の大きい順に整列し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合。



※ 全国の「正答数の少ない層」 …… 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合



	H30		H31(R1)		R3			
	A		B		国語			
	全道	全国	全道	全国	全道	全国		
割合	22.2%	23.2%	17.3%	17.5%	22.1%	21.4%	18.3%	18.6%
正答数	32問中 21問以下		9問中 3問以下		10問中 5問以下		14問中 6問以下	
全国との差	1.0	少ない	0.2	少ない	0.7	多い	0.3	少ない

【参考】今年度対象となった生徒の小学校6学年時の結果

平成30年度
 小学校国語A
 全道 全国
 22.2% 22.0%
 全国との差 0.2多い

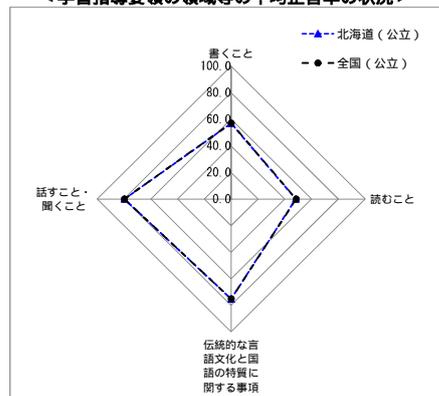
小学校国語B
 全道 全国
 20.4% 18.6%
 全国との差 1.8多い

問題別調査結果 [中学校国語]

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
	567	9,319		34,700	903,157
分類	区分		対象問題数(問)	平均正答率(%)	
	全体			北海道(公立)	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと		3	79.7	79.8
	書くこと		3	56.9	57.1
	読むこと		4	48.2	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		4	75.2	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度		4	55.3	56.0
	話す・聞く能力		3	79.7	79.8
	書く能力		3	56.9	57.1
	読む能力		4	48.2	48.5
	言語についての知識・理解・技能		4	75.2	75.1
問題形式	選択式		6	63.9	63.9
	短答式		4	74.7	74.4
	記述式		4	55.3	56.0

< 学習指導要領の領域等の平均正答率の状況 >



問題別集計結果

一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)
1一	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	1オ											90.2	89.7	0.1	0.2
1二	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	1エ					○						92.3	92.5	0.1	0.2
1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	1オ											56.6	57.1	3.3	3.4
2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	2エ					○						24.5	24.8	0.2	0.3
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	2オ					○						73.7	74.5	9.3	8.5
3一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する			1ア									43.2	43.7	0.3	0.4
3二	「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する	場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する			1ウ									59.5	58.7	0.3	0.4
3三	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			2イ									71.5	71.0	7.2	7.3
3四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	文章に表れているものの方や考え方を捉え、自分の考えをもつ			1オ									18.4	20.5	24.8	24.1
4一	漢字を読む(独ばして)	文脈に即して漢字を正しく読む			2(1)ウ(7)									97.7	97.5	1.1	1.5
4一	漢字を読む(詳細)				2(1)ウ(7)									90.1	88.8	1.8	2.3
4二	「随時」の意味として適切なものを選択する	事象や行為などを表す多様な語句について理解する			1(1)イ(9)									73.6	74.0	0.7	1.1
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う			2(1)イ(7)									39.4	40.3	1.7	1.7
4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く		2ウ				○						72.5	71.9	10.3	9.7

塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H30		H31(R1)	R3
	A	B		
平均正答率が全国以上の問題数	23 / 32問	5 / 9問	5 / 10問	6 / 14問
無解答率が全国以下の問題数	27 / 32問	6 / 9問	6 / 10問	11 / 14問
無解答率が5%以上の問題数	7 / 32問	3 / 9問	3 / 10問	4 / 14問

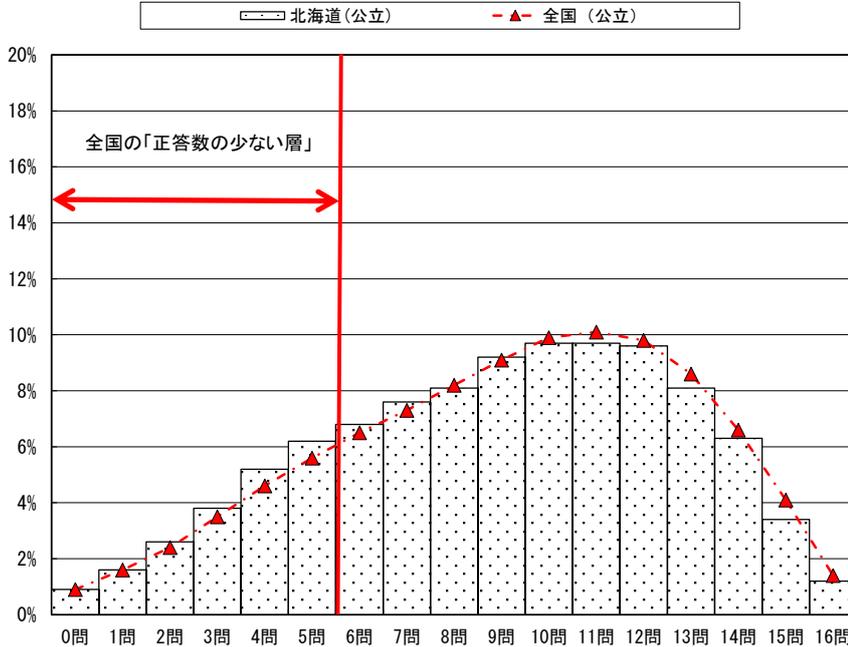
3. 教科に関する調査

■ 中学校数学

【概要】

- 平均正答率は56〔55.9〕%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.3ポイント。
- 【参考】今年度対象となった生徒の小学校6学年時の結果
平成30年度小学校算数Aの全国平均正答率との差は、-1.3ポイント。
平成30年度小学校算数Bの全国平均正答率との差は、-2.8ポイント。

	生徒数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	34,689	8.9 / 16	56〔55.9〕	9.0	3.7
全国(公立)	903,253	9.1 / 16	57〔57.2〕	10.0	3.7



※ 全国の「正答数の少ない層」 …… 全国の「第1四分位」未満の正答数の範囲

正答数 (生徒の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
16問(100.0%)	1.2	1.4
15問(93.8%)	3.4	4.1
14問(87.5%)	6.3	6.6
13問(81.3%)	8.1	8.6
12問(75.0%)	9.6	9.8
11問(68.8%)	9.7	10.1
10問(62.5%)	9.7	9.9
9問(56.3%)	9.2	9.1
8問(50.0%)	8.1	8.2
7問(43.8%)	7.6	7.3
6問(37.5%)	6.8	6.5
5問(31.3%)	6.2	5.6
4問(25.0%)	5.2	4.6
3問(18.8%)	3.8	3.5
2問(12.5%)	2.6	2.4
1問(6.3%)	1.6	1.6
0問(0.0%)	0.9	0.9

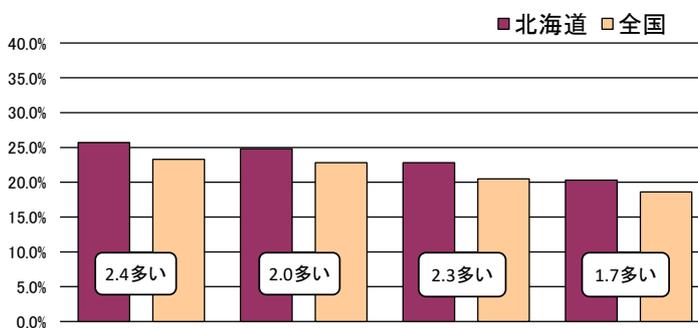
(割合は小数第2位以下を四捨五入)

四分位		
	北海道	全国
第3四分位	△12.0問	12.0問
第2四分位	◇9.0問	10.0問
第1四分位	▽6.0問	6.0問

※ 生徒を正答数の大きい順に整理し、人数の割合により4つの層に分ける際の分け目を、大きいものから順に「第3四分位」「第2四分位」「第1四分位」として示した。

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合。

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合



	H30		H31(R1)		R3			
	A		B		数学			
	全道	全国	全道	全国	全道	全国		
割合	25.7%	23.3%	24.8%	22.8%	22.8%	20.5%	20.3%	18.6%
正答数	36問中 17問以下		14問中 3問以下		16問中 5問以下		16問中 5問以下	
全国との差	2.4 多い		2.0 多い		2.3 多い		1.7 多い	

【参考】今年度対象となった生徒の小学校6学年時の結果

平成30年度
小学校算数A
全道 25.7% 全国 24.3%
全国との差 1.4多い

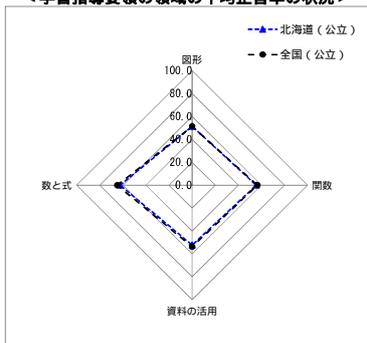
小学校算数B
全道 22.2% 全国 19.6%
全国との差 2.6多い

問題別調査結果 [中学校数学]

集計結果

対象学校数	北海道(公立) 567	全国(公立) 9,316	対象生徒数	北海道(公立) 34,689	全国(公立) 903,253
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全国(公立)	
全体		16	56 [55.9]	57 [57.2]	
学習指導要領の領域	数と式	5	62.5	64.9	
	図形	4	51.3	51.4	
	関数	3	55.6	56.4	
	資料の活用	4	52.3	53.8	
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	7	39.9	41.1	
	数学的な技能	3	75.1	77.7	
	数量や図形などについての知識・理解	6	64.9	65.6	
問題形式	選択式	2	52.0	52.4	
	短答式	9	69.2	70.5	
	記述式	5	33.5	35.0	

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)
1	$(5x + 6y) - (3x - 2y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	2 ⁽¹⁾ ア										72.2	77.1	0.9	0.8
2	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる	1 ⁽³⁾ ウ										68.6	71.3	8.6	7.6
3	中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ	扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している		1 ⁽²⁾ ウ									69.0	68.1	0.3	0.3
4	経過した時間と影の長さの関係を、「...は...の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している			1 ⁽³⁾ ア								46.1	48.0	10.3	9.3
5	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられたデータから中央値を求めることができる				1 ⁽¹⁾ ア							84.6	84.5	1.0	1.0
6(1)	四角で囲んだ4つの数が1, 2, 1, 3, 1, 7, 1, 8のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2 ⁽¹⁾ イ,ウ										83.3	83.9	3.8	3.5
6(2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成させる	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2 ⁽¹⁾ イ,ウ										58.4	61.8	17.9	15.4
6(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であることを説明する	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	2 ⁽¹⁾ イ,ウ										30.1	30.3	31.2	29.9
7(1)	与えられた表やグラフから、砂の重さが7.5gのときに、砂が落ちるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1 ⁽¹⁾ ウ								93.3	93.5	2.3	2.0
7(2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			1 ⁽¹⁾ エ,オ								27.3	27.7	24.9	24.7
8(1)	気温差が9以上12未満の階級の度数を書く	ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる				1 ⁽¹⁾ ア							80.8	83.0	5.3	4.2
8(2)	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ	相対度数の必要性と意味を理解している				1 ⁽¹⁾ ア							34.9	36.8	1.0	1.0
8(3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる					1 ⁽¹⁾ イ						8.9	11.1	35.8	32.2
9(1)	四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になること理由を説明することができる											42.7	44.3	4.7	3.6
9(2)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している											65.1	64.3	15.6	14.2
9(3)	ARGやASGの大きさについていつでもいえることを書く	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見いだし、それを数学的に表現することができる											28.6	28.8	30.8	28.7

塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H30		H31(R1)	R3
	A	B		
平均正答率が全国以上の問題数	8 / 36問	3 / 14問	3 / 16問	3 / 16問
無解答率が全国以下の問題数	19 / 36問	2 / 14問	5 / 16問	3 / 16問
無解答率が5%以上の問題数	10 / 36問	10 / 14問	9 / 16問	9 / 16問

4. 質問紙調査（P 3 の項目を掲載）

【児童生徒質問紙】

児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較

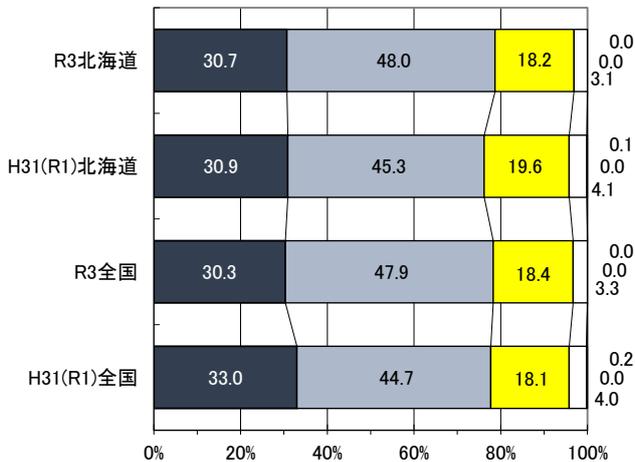
① 「5年生まで[中:1、2年生のとき]に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

(児童生徒 質問番号 小33、中33)

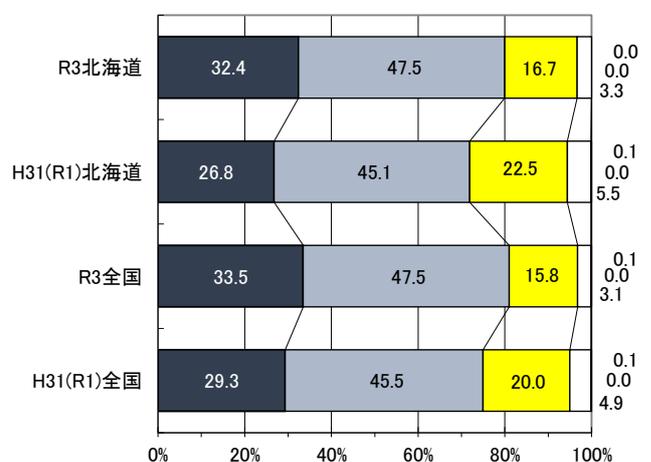
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で0.2ポイント低く、中学校で5.6ポイント高い。全国と比べて、小学校で0.4ポイント高く、中学校で1.1ポイント低い。

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 □無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



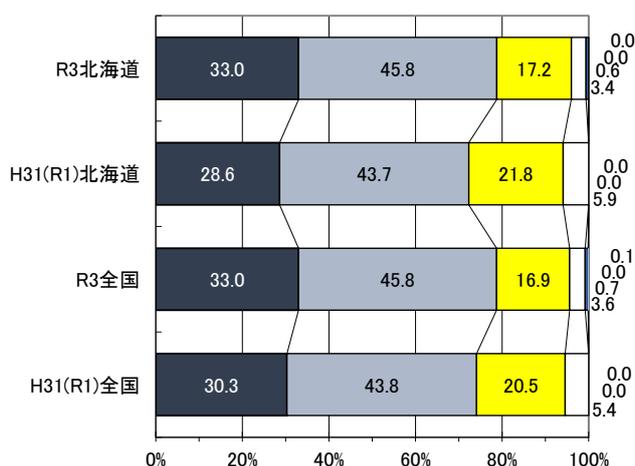
② 「学級の友達と[中:生徒]の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」

(児童生徒 質問番号 小37、中37)

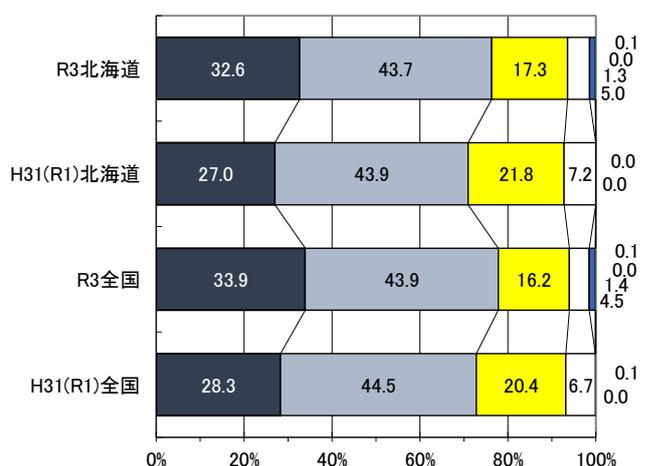
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で4.4ポイント、中学校で5.6ポイント高い。全国と比べて、小学校で同様、中学校で1.3ポイント低い。

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■5. 学級の友達[中:生徒]の間で話し合う活動を行っていない(R3新規) □6. その他 □無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



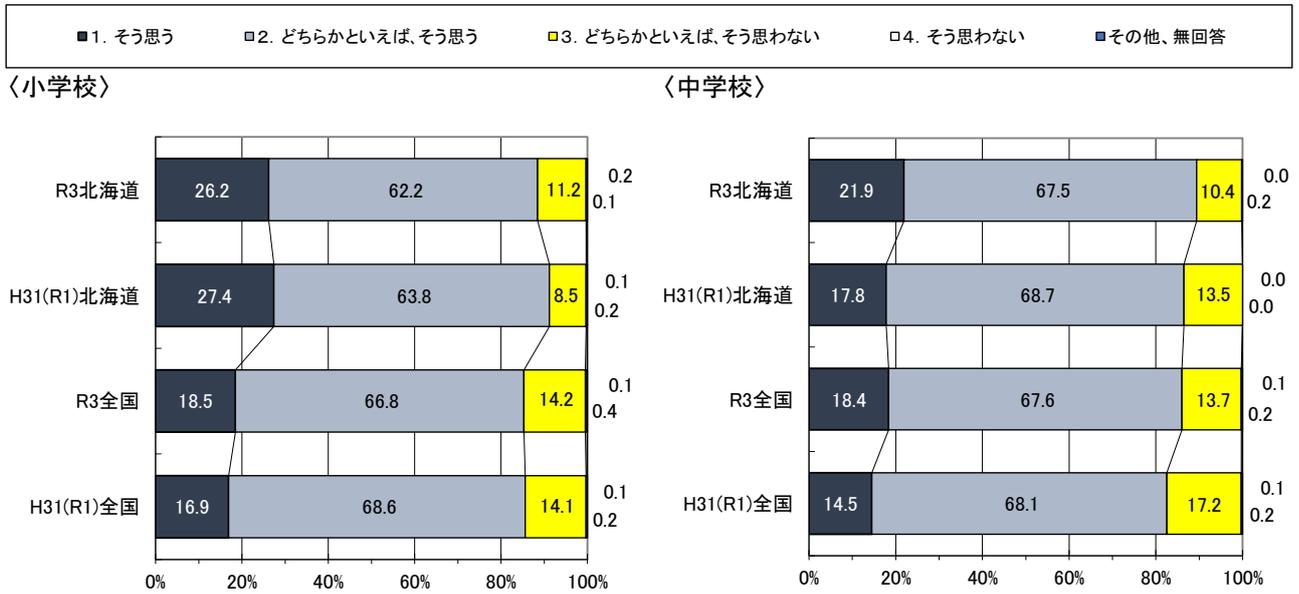
【学校質問紙】

児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較

⑦ 「調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」

(学校 質問番号 小29、中29)

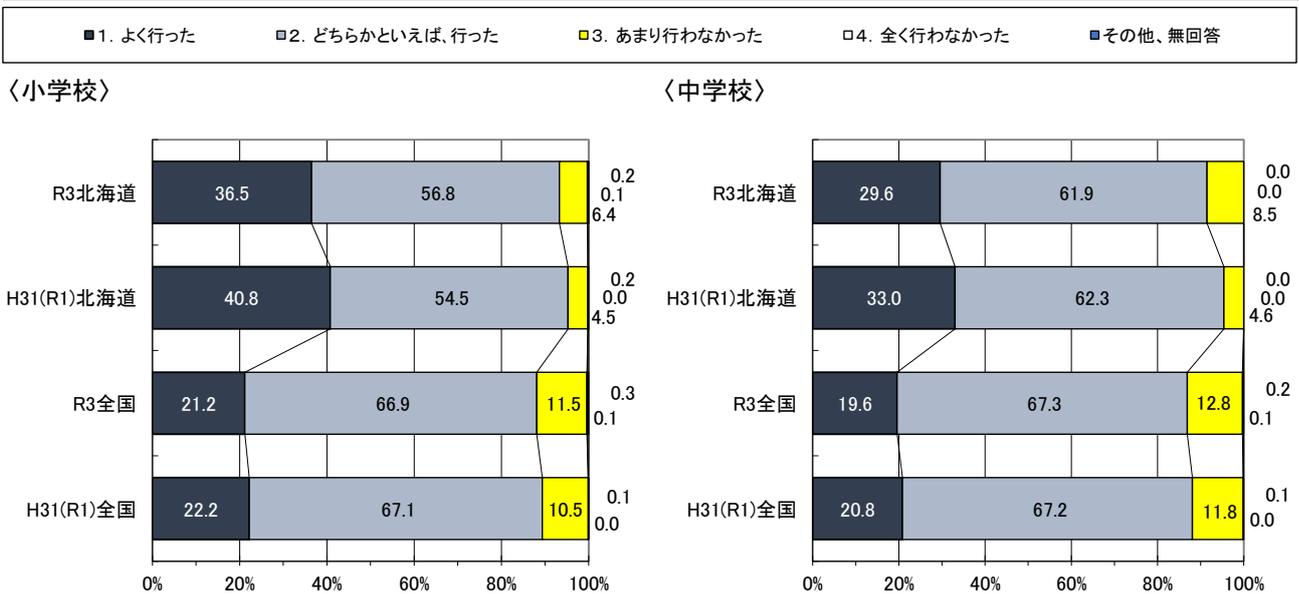
「1. そう思う」と回答している学校の割合は、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で1.2ポイント低く、中学校で4.1ポイント高い。全国と比べて、小学校で7.7ポイント、中学校で3.5ポイント高い。



⑧ 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」

(学校 質問番号 小36、中36)

「1. よく行った」と回答している学校の割合は、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で4.3ポイント、中学校で3.4ポイント低い。全国と比べて、小学校で15.3ポイント、中学校で10.0ポイント高い。



4. 質問紙調査（P 3 の項目を掲載）

【児童生徒質問紙】

児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較

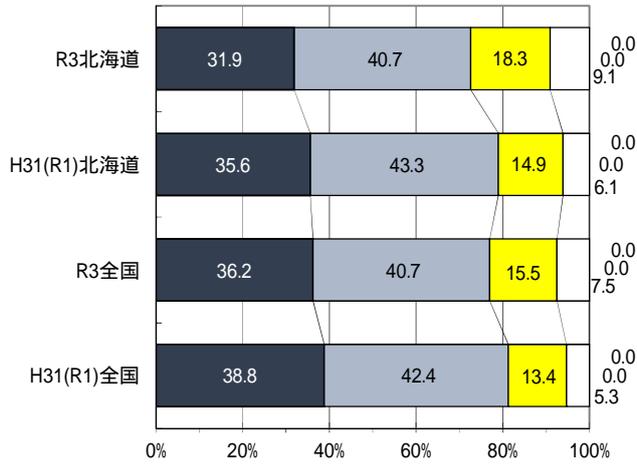
「自分には、よいところがあると思いますか」

(児童生徒 質問番号 小6、中6)

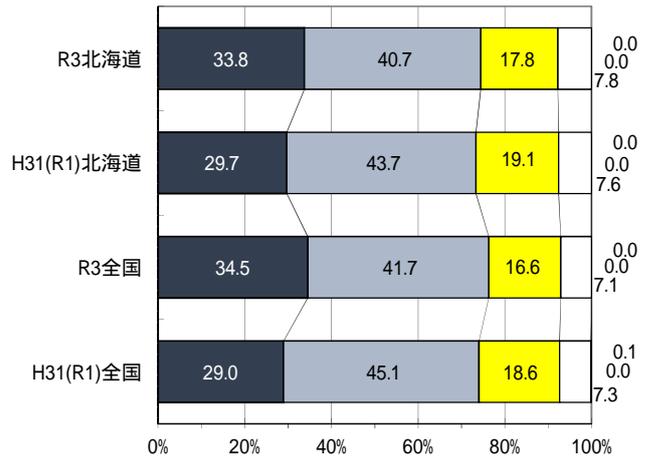
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で3.7ポイント低く、中学校で4.1ポイント高い。全国と比べて、小学校で4.3ポイント、中学校で0.7ポイント低い。

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 ■無回答

小学校



中学校



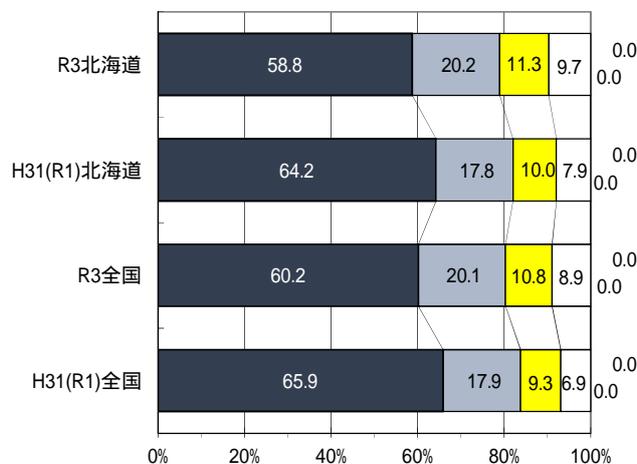
「将来の夢や目標を持っていますか」

(児童生徒 質問番号 小7、中7)

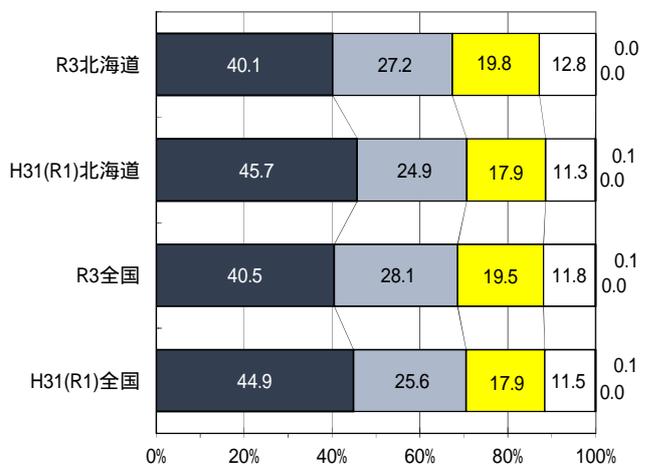
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で5.4ポイント、中学校で5.6ポイント低い。全国と比べて、小学校で1.4ポイント、中学校で0.4ポイント低い。

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない ■その他 ■無回答

小学校



中学校



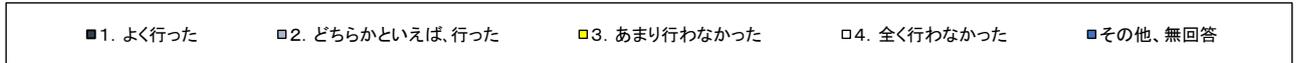
【学校質問紙】

児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較

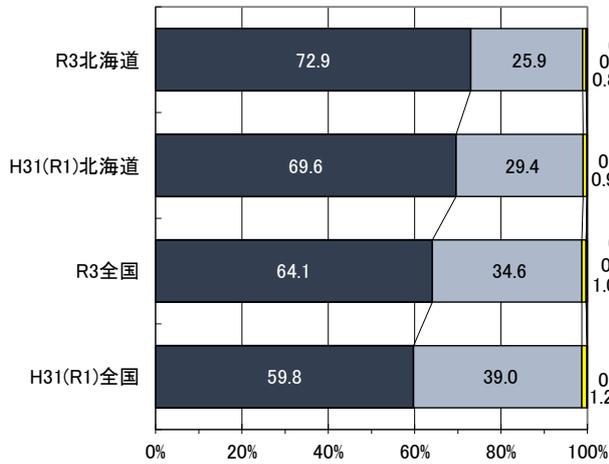
⑨ 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか」

(学校 質問番号 小11、中11)

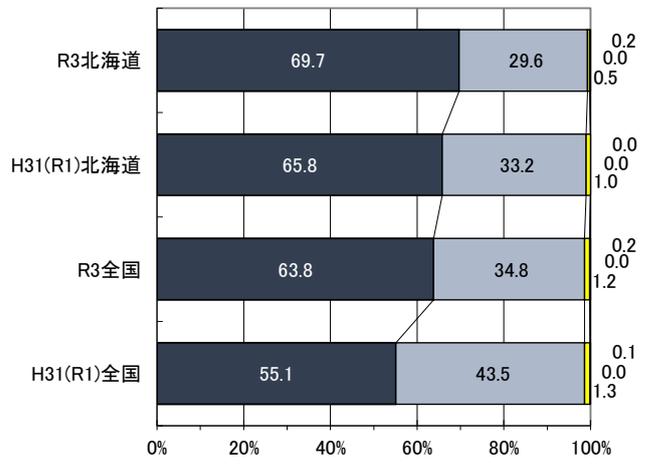
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で3.3ポイント、中学校で3.9ポイント高い。全国と比べて、小学校で8.8ポイント、中学校で5.9ポイント高い。



〈小学校〉



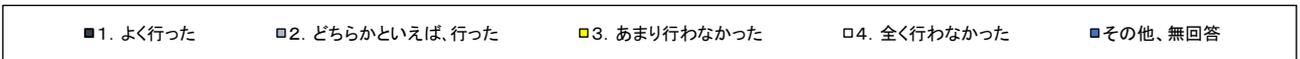
〈中学校〉



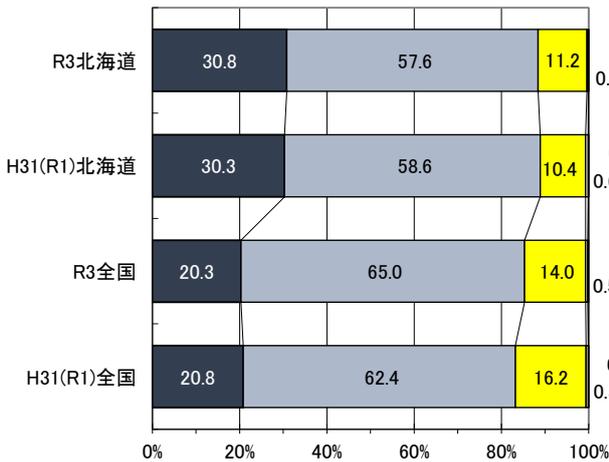
⑩ 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」

(学校 質問番号 小8、中8)

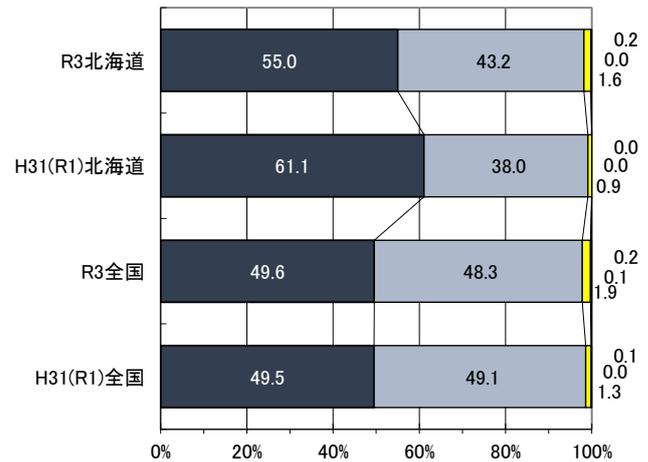
「1. よく行った」と回答している学校の割合は、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で0.5ポイント高く、中学校で6.1ポイント低い。全国と比べて、小学校で10.5ポイント、中学校で5.4ポイント高い。



〈小学校〉



〈中学校〉



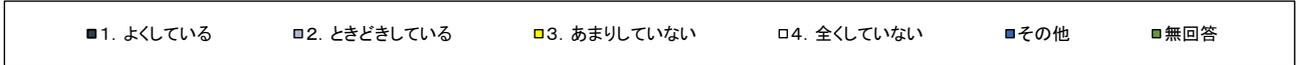
【児童生徒質問紙】

学習習慣、学習環境等に関する項目

⑤ 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」(学校の授業の予習や復習を含む)

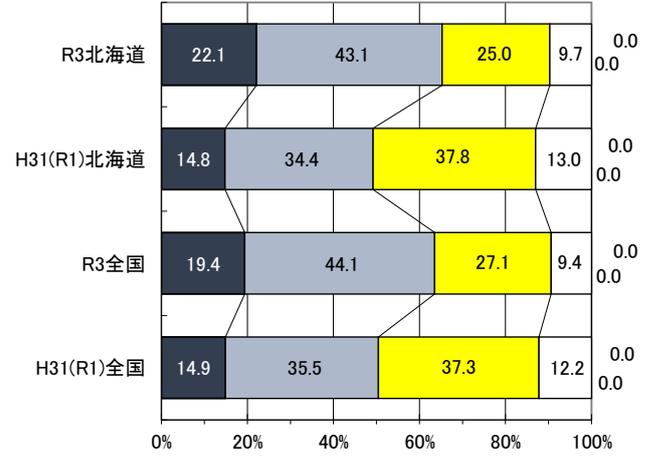
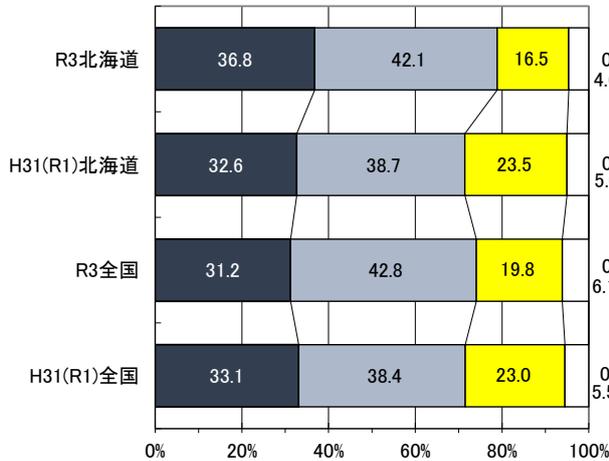
(児童生徒 質問番号 小17、中17)

「1. よくしている」、「2. とどきしている」と回答している児童生徒の割合は、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で7.6ポイント、中学校で16.0ポイント高い。全国と比べて、小学校で4.9ポイント、中学校で1.7ポイント高い。



〈小学校〉

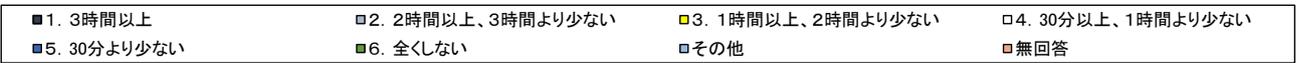
〈中学校〉



⑥ 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」

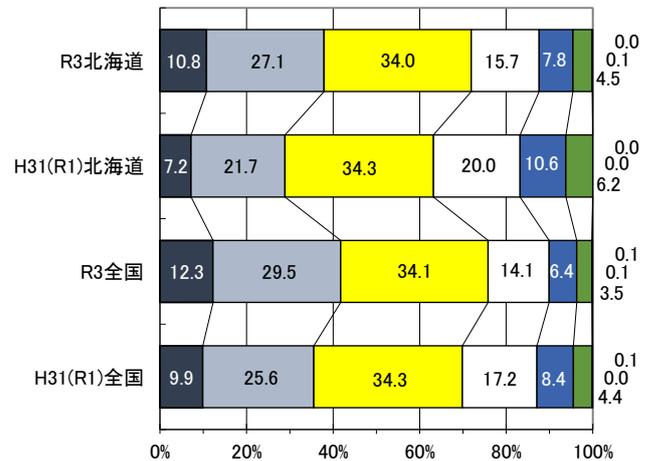
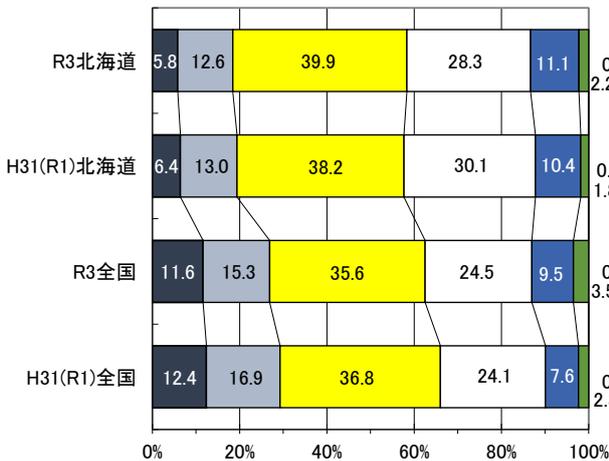
(児童生徒 質問番号 小18、中18)

1日当たり1時間以上勉強すると回答している児童生徒の割合は、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で0.7ポイント、中学校で8.7ポイント高い。全国と比べて、小学校で4.2ポイント、中学校で4.0ポイント低い。



〈小学校〉

〈中学校〉



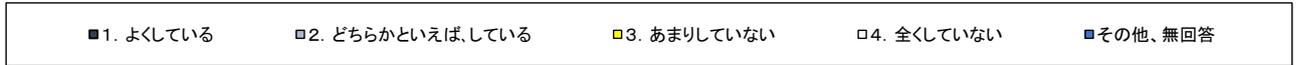
【学校質問紙】

学校運営に関する項目

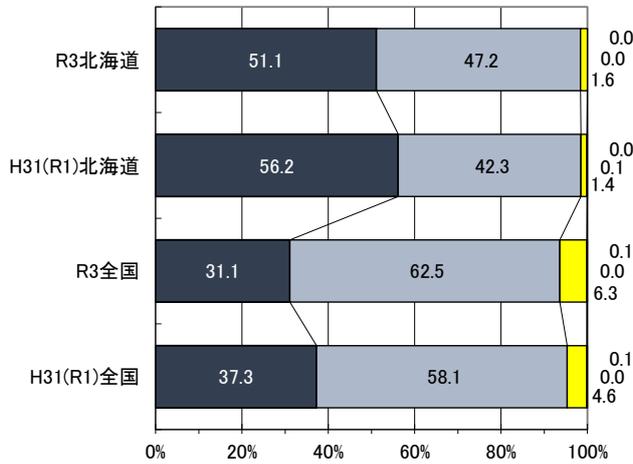
⑪ 「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」

(学校 質問番号 小19、中19)

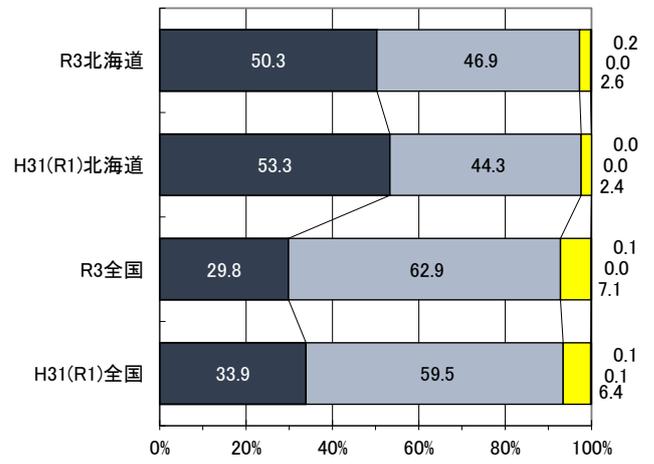
「1. よくしている」と回答している学校の割合は、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で5.1ポイント、中学校で3.0ポイント低い。全国と比べて、小学校で20.0ポイント、中学校で20.5ポイント高い。



〈小学校〉



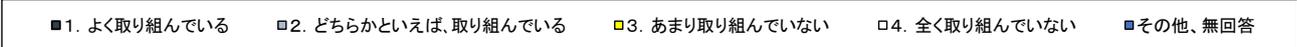
〈中学校〉



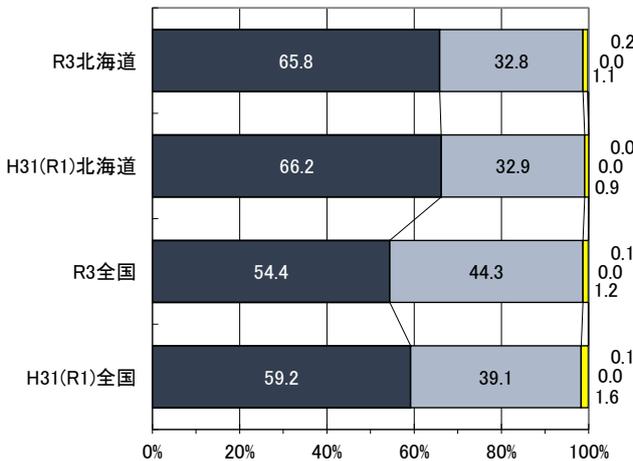
⑫ 「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか」

(学校 質問番号 小17、中17)

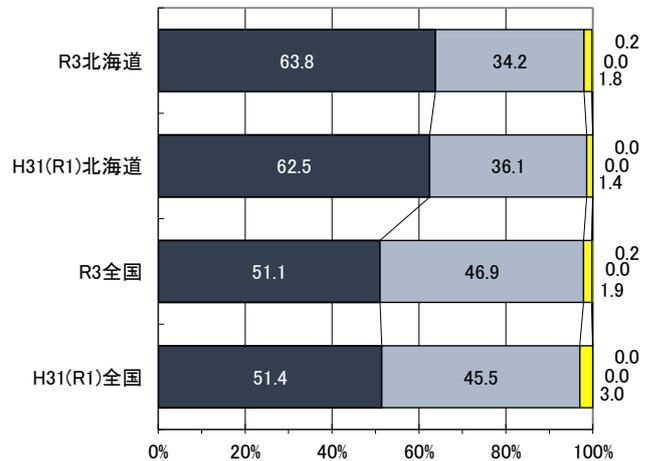
「1. よく取り組んでいる」と回答している学校の割合は、平成31年度(令和元年度)と比べて、小学校で0.4ポイント低く、中学校で1.3ポイント高い。全国と比べて、小学校で11.4ポイント、中学校で12.7ポイント高い。



〈小学校〉



〈中学校〉



【学校質問紙】

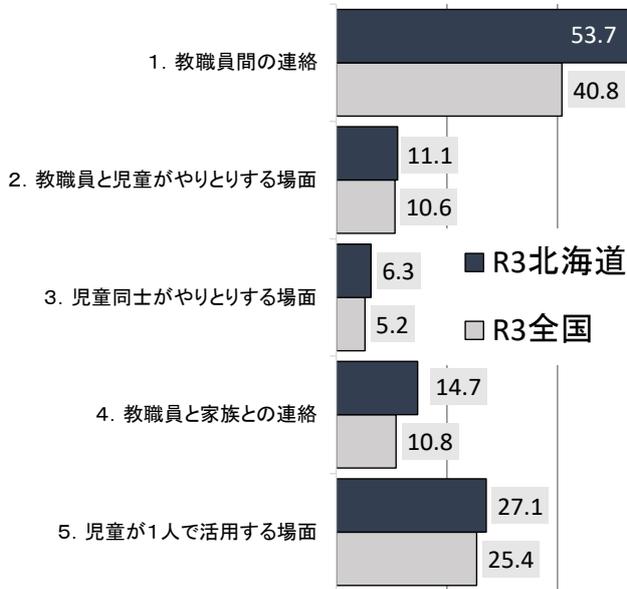
ICTを活用した学習状況に関する項目

⑬ 「ICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか」

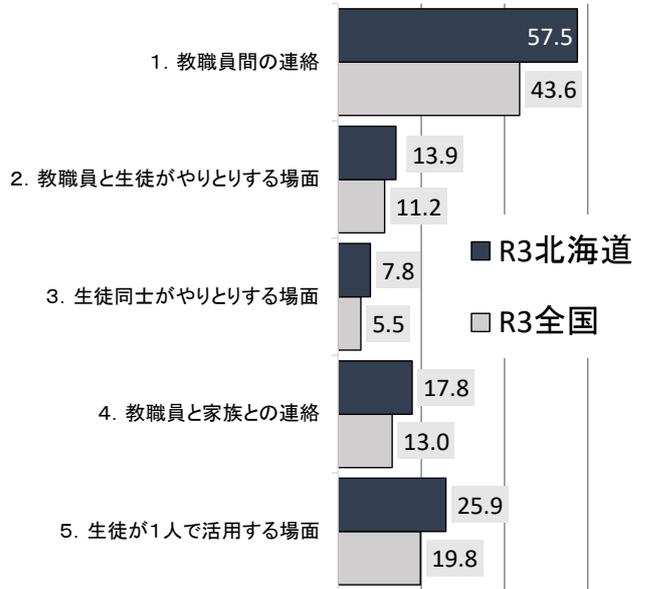
(学校 質問番号 小70～74、中70～74)

「2. 教職員と児童生徒がやりとりする場面」で「1. よく活用している」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で0.5ポイント、中学校で2.7ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉



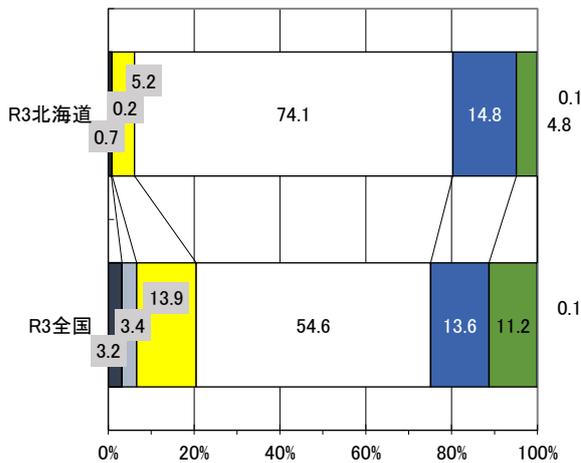
⑭ 「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようになっていますか」

(学校 質問番号 小75、中75)

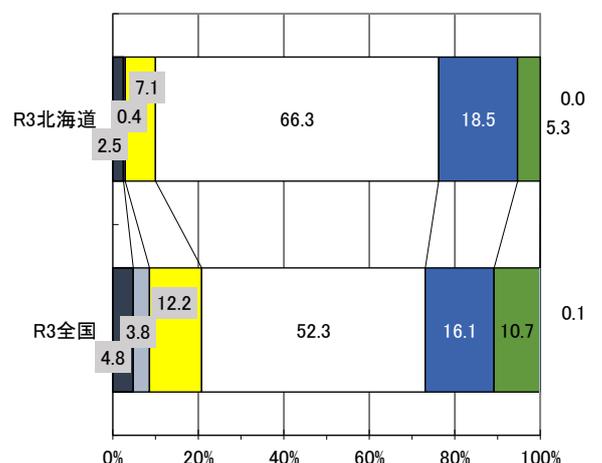
「家庭に持ち帰らせている」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で14.4ポイント、中学校で10.8ポイント低い。

- 1. 毎日持ち帰って、毎日利用させている
- 2. 毎日持ち帰って、時々利用させている
- 3. 時々持ち帰って、時々利用させている
- 4. 持ち帰らせていない
- 5. 持ち帰ってはいけないこととしている
- 6. まだ配備されていない
- その他、無回答

〈小学校〉



〈中学校〉



5.新型コロナウイルス感染症の影響について

去年（令和2年）の4～5月ごろ（新型コロナウイルスの感染症拡大で多くの学校が臨時休校していた時期）のことについて

児童生徒質問紙調査

勉強について不安を感じましたか。

計画的に学習を続けることができましたか。

規則正しい生活を送っていましたか。

学校質問紙調査

令和2年4月以降の新型コロナウイルス感染症の影響により、学校の全部を休業していた期間中、家庭学習としてどのようなものを課していましたか。

令和2年4月以降の新型コロナウイルス感染症の影響により、学校の全部を休業していた期間中の調査対象児童生徒の学習状況や生活状況について、どのような手段で把握していましたか。

【児童生徒質問紙】

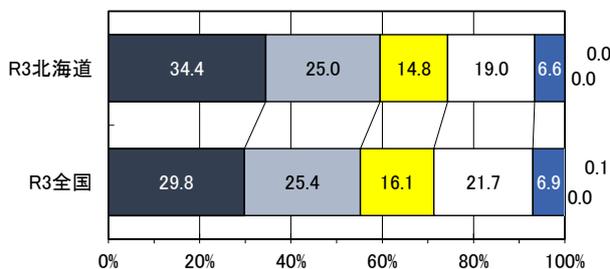
① 「去年(令和2年)の4～5月ごろ(新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた時期)に勉強について不安を感じましたか」

(児童生徒 質問番号 小64、中64)

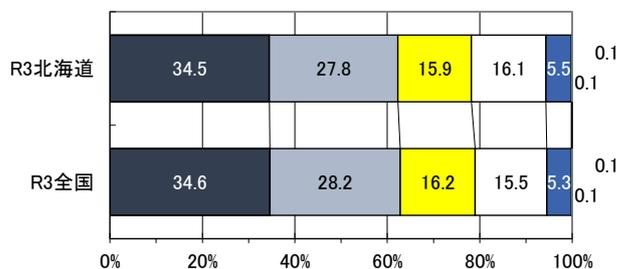
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校で4.6ポイント高く、中学校で0.1ポイント低い。

- 1. 当てはまる
- 4. 当てはまらない
- 7. 無回答
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 5. 思い出せない
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 6. その他

〈小学校〉



〈中学校〉



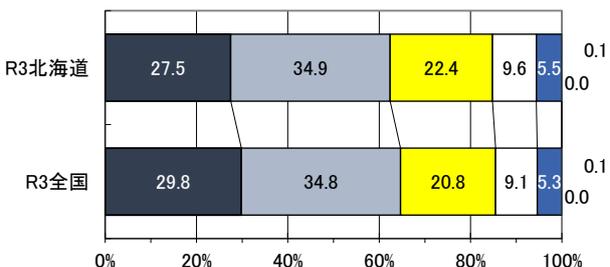
② 「去年(令和2年)の4～5月ごろ(新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた時期)に計画的に学習を続けることができましたか」

(児童生徒 質問番号 小65、中65)

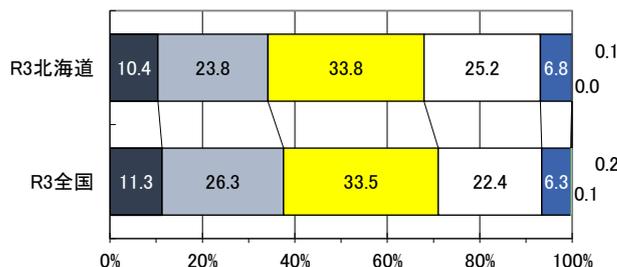
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校で2.3ポイント、中学校で0.9ポイント低い。

- 1. 当てはまる
- 4. 当てはまらない
- 7. 無回答
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 5. 思い出せない
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 6. その他

〈小学校〉



〈中学校〉



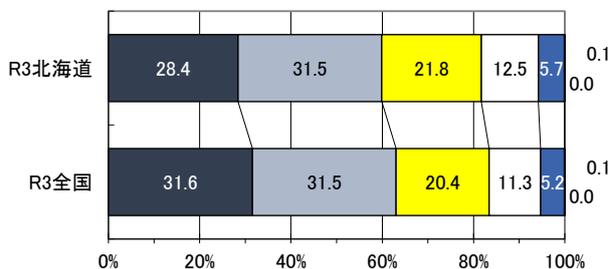
③ 「去年(令和2年)の4～5月ごろ(新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた時期)に規則正しい生活を送っていましたか」

(児童生徒 質問番号 小66、中66)

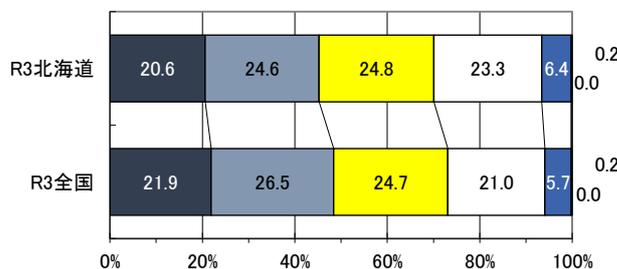
「1. 当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校で3.2ポイント、中学校で1.3ポイント低い。

- 1. 当てはまる
- 4. 当てはまらない
- 7. 無回答
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 5. 思い出せない
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 6. その他

〈小学校〉



〈中学校〉



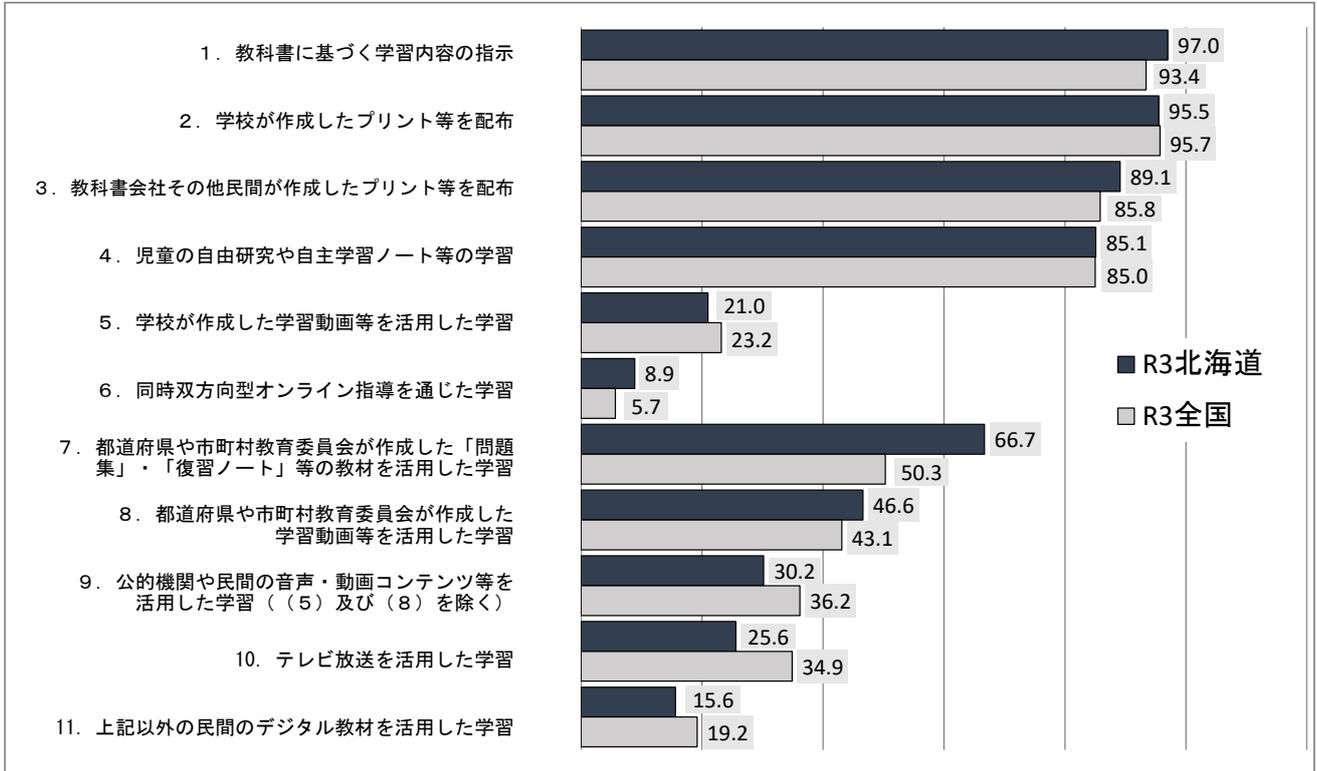
【学校質問紙】

④ 「令和2年4月以降の新型コロナウイルス感染症の影響により、学校の全部を休業していた期間中、家庭学習としてどのようなものを課していましたか」

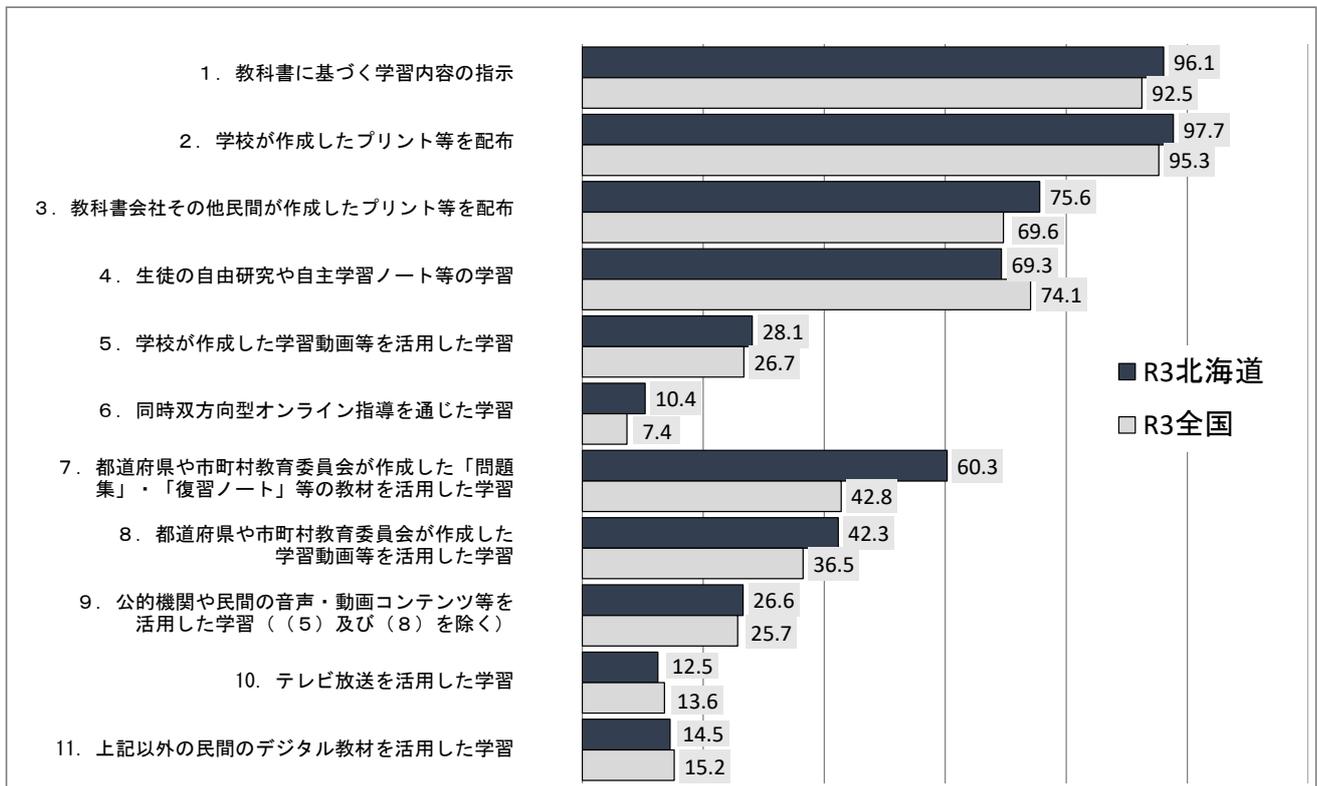
(学校 質問番号 小Ⅱ1～11、中Ⅱ1～11)

「7. 都道府県や市町村教育委員会が作成した「問題集」・「復習ノート」等の教材を活用した学習」で「基本的に全校で実施」「一部の学年・学級で実施」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で16.4ポイント、中学校で17.5ポイント高い。

〈小学校〉



〈中学校〉



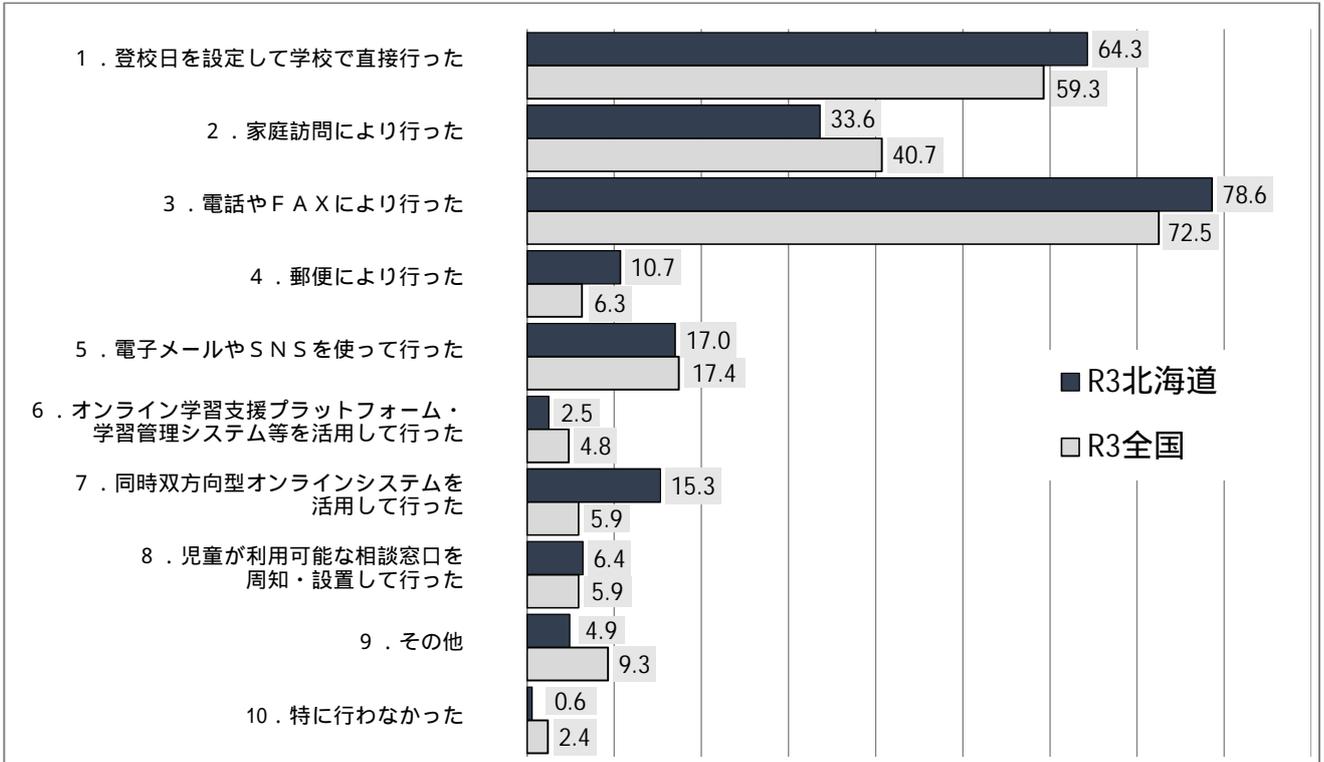
【学校質問紙】

「令和2年4月以降の新型コロナウイルス感染症の影響により、学校の全部を休業していた期間中の調査対象児童生徒の学習状況や生活状況について、どのような手段で把握していましたか」

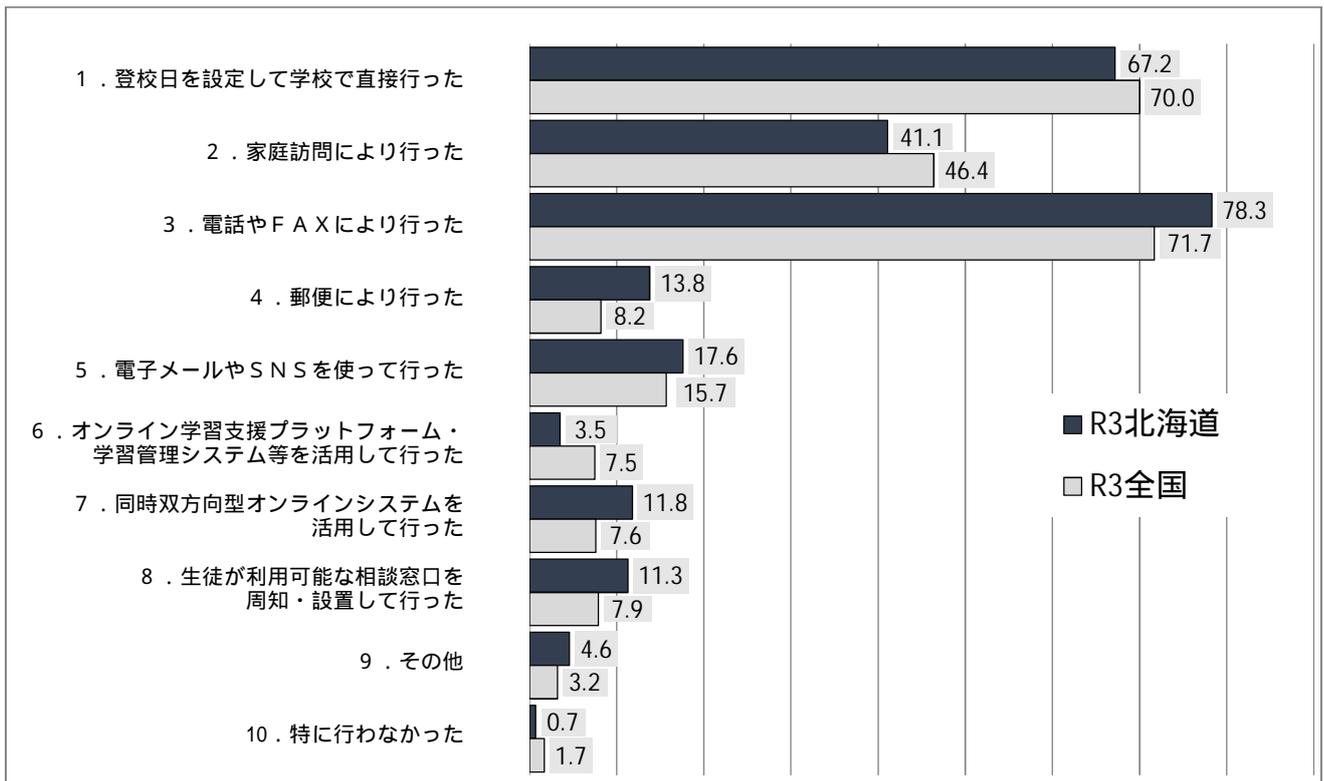
(学校 質問番号 小 、 中)

「同時双方向型オンラインシステムを活用して行った」と回答している学校の割合は、全国と比べて、小学校で9.4ポイント、中学校で4.2ポイント高い。

小学校



中学校



【参考】札幌市を除く北海道の調査結果

- 国は指定都市を除く都道府県の調査結果も公表していることから、「札幌市を除く北海道の調査結果」の概要を掲載します。

1. 調査の概要

	対象学校数(校)	実施学校数(校) (実施率)	児童生徒数(人)
小学校	782	775 (99.1%)	22,532
中学校	476	471 (98.9%)	22,705
合計	1,258	1,246 (99.0%)	45,237

2. 結果の概要

■ 教科に関する調査

各教科の平均正答率

		小学校		中学校	
		国語	算数	国語	数学
		R3	R3	R3	R3
		H31(R1)	H31(R1)	H31(R1)	H31(R1)
平均 正答率 (%)	道 (札幌市を除く)	63[62.7]	67[66.6]	64[63.7]	55[54.7]
		63[63.4]	64[63.9]	71[71.4]	57[56.7]
	国	65[64.7]	70[70.2]	65[64.6]	57[57.2]
		64[63.8]	67[66.6]	73[72.8]	60[59.8]
平均 正答数 (問)	道 (札幌市を除く)	8.8/14	10.7/16	8.9/14	8.7/16
		8.9/14	9.0/14	7.1/10	9.1/16
	国	9.1/14	11.2/16	9.0/14	9.1/16
		8.9/14	9.3/14	7.3/10	9.6/16

※ 道の平均正答率：国が公表した整数値〔道教委が独自に算出した小数値〕

※ 国の平均正答率：国が公表した小数値を、小数第1位で四捨五入した整数値〔国が公表した小数値〕

※ 上段は令和3年度、下段は平成31年度（令和元年度）の結果